

長尾和宏先生

先日は大変素晴らしいお話を長時間に亘り、拝聴できましたこと、とても感謝申し上げますし、心から喜んでおります。また、小生の不躰な質問にまでお忙しいなか、わざわざお触れいただき感謝に絶えません。

しつこいようですが、それでもストーンと落ちない部分があります。どうしてもお聞きしたくてお礼とともに再質問させていただくことにしました。

1. 会場で質問した真意は、人は自由な死に方が選択できるから、病院で映画「大病院」で津川雅彦が演ずる医師のごときにやっただけでも選択肢としてあるということでした。その通りです。そのこと自体は理解してのことです。問題は、病院は文字通り治療の場ですから、終末期の定義はないにしても大体治療という領域は手を尽くした。後は数時間、数日、数カ月もつかどうかの延命治療をするかどうかのところに医師の意識もなければ、本人や家族と如何に話し合いをし、同意するかという場面がないということです。三国連太郎の本人の意思に基づく強引な退院場面はありましたが。なぜその説明がなく、いきなり「可哀想じゃないか、あんなに苦しんでいるのに」ということになるのでしょうか？

2. 枯れて自然に亡くなる道を選んだ方が、むしろ長生きされるとのことでした。そういう医学的な流れの説明は良く分るのです。問題は、娘さんが出て来て甲斐甲斐しく介護をする場面ばかりが強調されていました。これは私に言わせればレアケースです。

先生の話の中には取りあえず在宅というのは自宅のことであって、介護者が四六時中いて、それだけで幸福なお立場にある方だけが映像として持ち込まれましたが、先日集まった人々はドクター、ナースの他は一般家族者よりも介護福祉施設の現場で働いている参加者が多かったはずで。

その中で、地域で在宅支援する映像は皆無でしたし、何よりも娘や息子はじめ家族は働かざるを得ず、親を自宅で介護出来る立場を保持できないという人々の方が圧倒的に多いのです。在宅=自宅で介護者がいて、枯れて自然に死を迎えられるということはある意味誰もが望むことではないのでしょうか？それができないから、課題を抱えている訳です。

地域包括支援システムは自分達で考えろということでしょうが、先生のお話の中には地域ケアチームの関わりが全くありませんでした。多くの聴衆とまで言わなくても、少なくとも小生の中には、矢張り綺麗ごとで終わった講演内容だったと思っております。

つまり、病院は治療の場として、後はどう過ごすのかの選択をした場合に自宅には帰られない高齢者が多勢いるという現実です。どのように死ぬかということについての理解はできました。問題はどこで死ぬかという点で在宅=自宅が理想でしょうが、それができない、例えば独居老人を、在宅支援=地域包括ケアとして出来ない。できるとすれば、介護施設に入るのがその時点ではベターまたはベストと判断される方が多いのです。その点での施設の役割、介護の仕方、あるいは施設で亡くなるまで、つまり言葉が当たっているかどうか分かりませんが看取りの介護をお願いしますという方も少なくありません。詰まり死ぬまで施設でいらっしゃるんですね、とお尋ねすると自分達が在宅に引き取れる時点までにはお願いしたいという方々ばかりです。そして引き取られる余裕のある方は殆どいません。

その場合、娘さんの「介護こそ私に母が与えてくれた使命だ」と言わしめた崇高な考え方の持ち主の映像がありましたが、誰もがそう思っている、その被介護者を含む自分達の生活そのものが脅かされて、とても介護まで手が回らないという人々こそどうすればいいのかというお話は全くありませんでした。

先生は医師ですから、医師のお立場で生死に関わるし、関わって来られたことは理解できます。そこには他職種の言わば、尊厳死や平穏死を、言ってみれば平穏に亡くなるまでを介護する立場のコ・ワーカーや施設のあり方や施設ワーカーについての内容は全く触れられていませんでした。在宅死がバラ色のように語られていると感じられるのはそのためです。どうしてもストーンと落ちないのはここです。

3. 地域の医療・福祉の連携はどうあるべきでしょうか。そのことを含めて、医療の本質と介後の本質ということをお尋ねしたつもりです。先生のお話の中に医療からの観点だけでお話されているということであれば、理解できます。突然丸尾さんが出てきたりするので混乱が生じる訳です。丸尾さんは家族のように最後まで看取り、そして、丸尾さんはそれぞれ介護されている方の娘や息子と同程度のあるいはそれ以上の形で慕われ、あんたの下で死ぬるのは最高だよ、という程度に<まじくって>いるということでしょうか？

4. 介護はビジネス、医療はビジネスじゃないのかという質問へのご回答は残念ながら回答としては当たっていません。ご説明の内容は医療法人や社会福祉法人のシステムでしたが、そんな分りきったことをお尋ねした覚えはありません。地鶏の本に介護は介護保険制度でビジネスに貶められ、そのために介護そのものも貶められているがごときことが書いてありましたので、反発した訳です。介護保険制度の最大の欠点は働く者や経営者を保険料と税金の財源に縛り、

しかも改正の度に首を絞めるために昇給システムがないことと、良質なサービス提供ができずに悪徳業者がはびこるといふ悪循環にあります。

大変失礼ですが、もう一度以上のことについてご教示下さい。

平成 26 年 6 月 16 日